

成功のイメージ その4**目標というメンタリティ**

なぜテニスをするのか？・・・それは「テニスがしたいから」である。「テニスをしなくちゃならないから」と答える者はいない。そして、練習が辛くても、試合に負けて悔しくても「テニスがしたいから」と答えられるのは、この「テニスがしたいから」という言葉が、お前たちにとっては「強くなりたいたいから」「全道大会（全国大会?!）に出たいから」とほとんど同じ意味を持っているからである。

それじゃ、なぜ勉強をするのか？・・・「勉強したいから」と答えられる生徒はなかなかいない。それどころか「勉強しなくちゃならないから」と考える者が大半である。しかし「テニスがしたいから」が「強くなりたいたいから」「全道大会・全国大会に出たいから」と同じ意味だとすれば、「勉強したいから」という答は「学力を伸ばしたいから」、そして「進路の目標をかなえたいから」と同じ意味だということになる。

全道大会に出たいという願望は切実である。そしてその切実さの根拠は、「全道大会出場」という成功のイメージのリアリティにある。全道大会に出られることがどんなに素敵なことなのか、そして出られないことがどんなに残念なことなのか、はっきりと見えているからである。加えて言うなら、1年生に示した「全国大会」という目標がぴんと来ないのは、それが成功のイメージとして、まだまだリアリティに乏しいからである。未だ実現可能な成功のイメージとして醸成^{じょうせい}されていないからである。そしてそのためには、時間と努力が必要だということである。

さて、それじゃどうすれば勉強へのモチベーションを高められるだろう。それにはまず、「勉強しなくちゃ」と考えないことである。それよりはむしろ、それと同じ意味の、将来はこんなふうになりたい、さらにはもっと具体的な進路のビジョン（展望、目標、理想我・・・「夢」でもいい）をはっきりと掲げることである。言い換えれば、成功を実現した数年後の自分というイメージを、リアリティ豊かなものにすることである。

モチベーションの根拠となる「・・・したい」という願望が、「・・・しなくちゃ」という義務感とはまったく違っているのは、それが誰でも普通に持っている自然なメンタリティだという点である。いつだってすぐに思うことができるし、持続することも簡単なのだ。また、その目標（＝成功のイメージ）が途中で変わってしまうことを恐れる必要も全くない。だって、そのおかげで頑張ることができるのであれば、それだけでその目標（＝成功のイメージ）は役目を十分に果たしたと言えるのだから。次の目標（＝成功のイメージ）がリアリティを持つために、もう一回、努力と時間を費やすだけのことである。

目標（＝成功のイメージ）を持て。それも、とびきりわくわくする魅力的なイメージを作りなさい。あとは、それにどうやってリアリティの味付けをするかである。